様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：２５５０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００３００

研究課題名（和文）小津久足紀行文の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study of travelogues by Ozu-Hisatari

研究代表者
菱岡　憲司（Hishioka, Kenji）

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：１０５４８７２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：小津久足の紀行文に関係する資料収集・分析を行い、その成果を『石水博物館所蔵　小津桂窓書簡集』（和泉書院、2020）をはじめ、単行本や学術雑誌・紀要等に翻刻紹介した。また、研究の過程で得た知見にもとづき、『大才子　小津久足』（中央公論新社、2023）を一般書として発刊し、紀行文執筆を含む、江戸時代後期の文化状況を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究により、小津久足は、小沢蘆庵歌論の受容や馬琴とのやりとりを経て、達意の文章でありのままの現在を書き記すという文学観を形成し、それにもとづいて紀行文を執筆していたことが明らかになった。よってその紀行文には、江戸時代後期の正確な実態が記しとどめられており、これは文学研究にとどまらず、歴史学や経済史学、また民俗学など、多くの学問分野にとって有益な資料であることが明確になった。その研究成果を翻刻や論文・単行本執筆というかたちで公にしたことは、学術的にはもちろんのこと、一般書刊行による学術成果の社会還元という点でも、大きな意義がある。

研究成果の概要（英文）：I collected and analyzed materials related to the travel writings of Ozu-Hisatari, and reprinted and introduced the results in books, academic journals, bulletins, and other publications, including "Sekisui Museum Collection of Letters by Ozu-Keisou" (Izumishoin, 2020). Based on the findings of his research, I published a book entitled "Dasaisi Ozu-Hisatari" (Chuokoronshinsha, 2023), which clarified the cultural situation in the late Edo period, including travelogue writing.

研究分野：日本近世文学

キーワード：小津久足　紀行文　江戸時代　書簡　伊勢文化圏　雅俗　松坂商人　小津桂窓

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

小津久足（1804～1858）は、曲亭馬琴の友人、また「西荘文庫」と称する江戸時代でも屈指の蔵書の収集家として知られていた。一方で、近世紀行文を専門とする板坂耀子氏の先駆的な業績により、多くの優れた紀行文を残していたことがわかっていたものの、その全貌と詳細は不明であった。同じ「馬琴の友人」としては、殿村篠斎・木村黙老などは『日本古典文学大辞典』（岩波書店）に立項されているが、小津久足（桂窓）の項目はない。すなわち、馬琴や江戸時代の蔵書を専門的に研究する者は知っているが、専門から外れると知名度は高くない、という存在であった。

こうした状況のなか、研究代表者は小津久足に着目し、その紀行・詠歌・蔵書・小説受容の４つの文事の解明につとめてきた。そして「小津久足の文事―近世後期における紀行・詠歌・蔵書・小説受容の考察―」（若手研究、15K16692）の助成を得て、成果を『小津久足の文事』（ぺりかん社、2016）や『小津久足資料集』（雅俗研究叢書３、2019）としてまとめ、蔵書・小説受容の一部の理解にとどまっていた小津久足の文学的営みに、多くの新知見を見出してきた。

上記の過程で、とりわけ研究の必要性を痛感したのが、小津久足の一連の紀行文である。地震等の災害の多い日本は、いずれの地域も被災地になる可能性があり、そのような状況のなか、小津久足の 46 点の紀行文の調査を行い、可能な限り翻刻・紹介することは、土地の記憶と先人の息づかいを日本の文化遺産として後世に残すことにつながるため、本研究は、学術的にも公共的にも意義深いものだと考えたからである。

２．研究の目的

小津久足は馬琴の友人、蔵書家として知られる人物であり、近年、46 点のすぐれた紀行文を残したことでも注目を浴びている。その紀行文は、道中記録・草稿本・清書本がそれぞれ小津家・日本大学図書館・天理大学附属天理図書館に残存しており、詳細で正確な記述によって、近世後期の時代状況を生々しく現代に伝えている。江戸時代後期を代表する戯作者馬琴と小説批評をやりとりし、自身も多くの和歌を詠み、古今の稀書を蒐集した小津久足の記す紀行文は、文学作品としても極めて高い完成度を示している。一方で、現代では失われてしまった風俗や土地の記憶を多く含み、歴史学や民俗学からしても第一級の史料となっている。このような多方面に活用の見込まれる小津久足の紀行文に対して、資料収集・内容分析・生成過程の解明を行うことで、近世後期の文化状況を明らかにする。

３．研究の方法

本研究では当初、①天理大学附属天理図書館所蔵の草稿本の全書誌調査、②小津家所蔵資料の保存・継承、③『小津久足紀行文選集（仮）』の発刊、以上の 3 つの達成目標とそれに即した方法を設定しており、そのため、小津久足紀行文を所蔵する天理大学附属天理図書館・日本大学図書館等に赴いて書誌調査を行い、道中記録・草稿本・清書本それぞれを詳細に検討する予定であった。しかし、新型コロナウィルス流行の影響により、出張による書誌調査を控えざるを得なくなったため、文献複写を活用して、天理大学附属天理図書館に残る小津久足紀行文関連資料の複写を取り寄せ、内容分析を行うことに切り替えた。また、『小津久足紀行文選集（仮）』の発刊も、現地調査の制限によりむずかしくなったが、こちらも、石水博物館所蔵の書簡資料の翻刻・分析や、研究成果としての単行本の執筆に切り替えて作業を行った。

４．研究成果

上記のように出張が困難な状況となったため、2020 年度より翻刻や執筆に重点を置いて研究を行った結果、研究成果として 2 冊の単行本を出版することができた。

まず、責任編集をつとめた『石水博物館所蔵 小津桂窓書簡集』（菱岡憲司・髙倉一紀・浦野綾子編集、和泉書院）を 2020 年度科学研究費助成事業の研究成果公開促進費（20HP5030）によって発刊した。本書のなかには、知己・川喜田遠里に対して小津久足の紀行文『月波日記』の貸借を行っている記述が見いだせるほか、『月瀬日記』で旅をした土地に関わる書物を積極的に収集する様子がうかがえるなど、紀行文の生成につながる記述が多数見いだせる。これらにより、久足紀行文の成立や流通に関する新たな事実が判明した。

また、文献複写や、すでに収集していた画像資料の分析を中心に研究を行ったことで、かえって小津久足紀行文全 46 点を見直し、その分析結果をふんだんに利用した単著『大才子 小津久足』（中央公論新社、2023）を、一般の読者をも想定した中公選書の一冊として刊行することができた。研究成果の社会への還元という意味では、当初の計画以上の成果をあげることができたといえる。

さらに、小津家に残る『花山道秀居士伝』と、天理大学附属天理図書館所蔵で、小津久足の養子克孝の記した『江戸日記』の全文翻刻を行い、公開した。また、久足の歌論がうかがえる和文寓話『午夢譚』（天理大学附属天理図書館所蔵）を翻刻し、石水博物館に寄託された小津久足他宛・山本榕室他差出の書簡を整理したうえ、解題を付して翻刻した。これは、久足が紀行文のなかでも訪ねる、京都の平安読書室と伊勢文化圏の具体的な交流を示す資料であり、本草学を軸とした文化交流についても実態が明らかになった。さらに、オンライン・シンポジウム「雅俗論のゆくえ」に発表者として登壇し、本研究で得た成果にもとづき、発表と討論を行った。また国際研究集会「〈紀行〉研究の新展開」において、「小津久足の生業と紀行文」と題して基調講演を行い、その後、総合討論を行った。これにより、小津久足の紀行文が、中世紀行なども踏まえた広い視野で検討され、紀行文研究の新たな可能性を示すこととなった。

以上のように、研究当初とは異なる社会情勢のなか、デジタル資料の活用や、ZOOM などの遠隔機器を用いた研究会・学会の開催など、不測の事態のなかでも実行可能なことを探ることで、かえってこれまでにないアプローチから、充実した成果をあげることができたといえよう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 菱岡憲司	４．巻 39
２．論文標題 小津久足と平安読書室―翻刻・山本榕室書簡―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 鈴屋学会報	６．最初と最後の頁 41－63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菱岡憲司	４．巻 16
２．論文標題 『忘へい竊記』における小津久足の本草問答	５．発行年 2023年
３．雑誌名 山口県立大学学術情報	６．最初と最後の頁 85－89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 菱岡憲司	４．巻 21
２．論文標題 小津と深川	５．発行年 2022年
３．雑誌名 雅俗	６．最初と最後の頁 194-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 菱岡憲司	４．巻 21
２．論文標題 小津久足の和文寓話 翻刻『午夢譚』	５．発行年 2022年
３．雑誌名 雅俗	６．最初と最後の頁 168-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 21
2．論文標題 馬琴と小津桂窓（久足）の雅俗観	5．発行年 2022年
3．雑誌名 雅俗	6．最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 130・131
2．論文標題 小津久足と本居大平―大平添削への反駁	5．発行年 2021年
3．雑誌名 語文研究	6．最初と最後の頁 311-325
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 20
2．論文標題 小津桂窓宛円山応震書簡一通	5．発行年 2021年
3．雑誌名 雅俗	6．最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 15(28)
2．論文標題 翻刻『花山道秀居士伝』―干鰯問屋・湯浅屋与右衛門と小津与右衛門家―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 山口県立大学学術情報 国際文化学部紀要	6．最初と最後の頁 131-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司　龍泉寺由佳	4．巻 15(28)
2．論文標題 小津克孝『江戸日記』翻刻と解題―伊勢商人の江戸店滞在日記―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 山口県立大学学術情報 国際文化学部紀要	6．最初と最後の頁 137-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 神楽岡 幼子、グラムリヒ＝オカ ベティーナ、辻村 尚子、菱岡 憲司、神作 研一、小林 ふみ子	4．巻 114
2．論文標題 シンポジウム 「つながる喜び ―江戸のリモート・コミュニケーション―」報告	5．発行年 2021年
3．雑誌名 近世文藝	6．最初と最後の頁 61～68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20815/kinseibungei.114.0_61	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 20
2．論文標題 小津桂窓の「神速」読書術	5．発行年 2021年
3．雑誌名 雅俗	6．最初と最後の頁 104-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 14
2．論文標題 本居宣長記念館所蔵・小津桂窓宛書簡（五）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 山口県立大学学術情報	6．最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 1
2．論文標題 馬琴初期読本と『著作堂旧作略自評摘要』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 享和・文化初期読本の基礎的研究	6．最初と最後の頁 31－33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菱岡憲司	4．巻 1
2．論文標題 石水博物館所蔵小津桂窓関連書簡 解題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 伊勢商人の文化的ネットワークの研究 研究成果報告書	6．最初と最後の頁 43－45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 菱岡憲司
2．発表標題 小津久足の生業と紀行文
3．学会等名 国際研究集会「〈紀行〉研究の新展開」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 菱岡憲司
2．発表標題 馬琴と小津桂窓（久足）の雅俗観
3．学会等名 シンポジウム「雅俗論のゆくえ」（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 菱岡憲司
２．発表標題 近世商人の蔵書形成と書簡―川喜田遠里宛小津桂窓書簡に即して―
３．学会等名 日本近世文学会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計3件

１．著者名 菱岡憲司	４．発行年 2023年
２．出版社 中央公論新社	５．総ページ数 458
３．書名 大才子 小津久足―伊勢商人の蔵書・国学・紀行文―	

１．著者名 菱岡憲司、髙倉一紀、浦野綾子	４．発行年 2021年
２．出版社 和泉書院	５．総ページ数 248
３．書名 石水博物館所蔵　小津桂窓書簡集	

１．著者名 西日本近世小説研究会（木越俊介・天野聡一・大屋多詠子・菊池庸介・田中則雄・中尾和昇・菱岡憲司・藤川玲満・藤沢毅・三宅宏幸）	４．発行年 2020年
２．出版社 遊文舎	５．総ページ数 120
３．書名 享和・文化初期読本の基礎的研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関